

# すがもらいぶらり

蔵の中には  
いったい何が…

2022年2月5日 巣鴨図書館発行



金沢ではありません。  
じぞうさんぽ  
読んでね!



コロナの勢いがおさまる気配がみえてまいりません。巣鴨図書館では、できる限りの感染対策をしておりますが、感染リスク軽減のためには、来館者の方のご協力が欠かせません。「マスク着用」・「手指消毒の実施」をお願いします。また、体調がすぐれない時のご来館は、ご遠慮ください。

さて、ここからは、巣鴨図書館前庭のソメイヨシノ桜のお話です。

お気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、1月28日、前庭のソメイヨシノの大規模な剪定を行いました。前庭には、樹齢50年を超える古木が4本。比較的若いものが2本ありましたが、西側の古木1本は倒木の危険があったため根本より伐採せざるをえなくなり、残りの古木3本も強剪定を施しました。

もともとソメイヨシノ桜は、50年を超えると幹の内部が腐ってしまうため、寿命60年という説があります。今回の剪定では、幹や枝の状態を確認し少しでも寿命が伸びる処置をしました。春にきれいに咲き誇る姿を待ち遠しく思います。

また、伐採した幹を加工し出入口の鉢植えの土台としています。剪定してくれた植木屋さんの粋な計らいです。40年以上この地で育ったソメイヨシノを一部でも残すことができうれしく思っています。(館長)

剪定した桜の枝で草木染にチャレンジしたいと思っています。

ただいま勉強中!

イラスト作 S



## じぞうくんのそぼくな疑問



ぼくはじぞう。心にうつりゆく、ちょっとした疑問をここでつぶやいていくよ。



じぞう こんにちは、かもさん!どこかに出かけるお話が読みたいな。それもどこにもないような国のお話。

かも なるほど。では『ニルスのふしぎな旅』はどうですか?やんちゃな小人のニルスが、がちょうに乗って旅をするんですが、その訪れる国々がとっても魅力的なんです。例えば百年に一度、一時間だけ現れる町とか…。

じぞう ええ!気になる!

かも 割と長めの物語ですが、一つ一つのお話が短いのであつという間に読めちゃいますよ。

あとは『木を植えた男』かな。旅する若者が一人の羊飼いと出会います。羊飼いは荒地にどんぐりを埋めて、育てているのですが、中々上手くいっていないように若者には見えたのですが……。寡黙な老人の息遣いが聞こえてくるような作品です。こちらは絵本ですが、心を掴まれるのは大人かもしれませんね。

じぞう へえ。長い読み物が児童向けで、絵本が大人向けなんだ。あべこべみたいで面白いね。

かも どちらも大人、こども問わず楽しめる本ですけどね。あべこべといえば、『さかさ町』というお話もあります。おじいちゃんの家に向かう途中で線路事故にあい、さかさ町で過ごすことになった二人のお話。この町ちょっと様子がおかしくて…

じぞう 様子がおかしい「さかさ町」!読んでみるね!

かも 不思議な国へひとつ飛びできるのもファンタジーの醍醐味。ぜひたくさんの世界を楽しんで下さい。

### じぞうくんのおすすめ本はこちら

『ニルスのふしぎな旅』 上・下  
セルマ・ラーゲルレーヴ/作 菱木晃子/訳 ベッティール・リーバック/画 福音館書店【ラ】

『木を植えた男』  
ジャン・ジオノ/著 寺岡襄/訳 黒井健/絵  
あすなろ書房 2015.10【Y953 シ】

『さかさ町』  
F.エマーソン・アンドリュース/作 ルイス・スロポドキン/  
絵 小宮由/訳 岩波書店 2015.12【ア】

## 俳句、はじめてみませんか?

今回のトピックは「俳句」。17音で構成される、世界で一番短い定型詩といわれています。

「趣味は俳句です」というと、「ふ、風流な趣味だねー」とか「着物とか着ちゃうの?」など、ちょっと引いた反応が返ってることがあります。俳句はもっと自由でカジュアルに楽しめるものなのに、壁を作られてしまうのは勿体無いと思うのです。俳句はその短さもあって、つぶやきのようなものです。Twitterのような感覚でも楽しめるのではないのでしょうか。

基本的には俳句は季語が入ります。季語とは四季を表す言葉。桜は春、月は秋といった代表的なものも含めて数千語もあるんですよ。ひとつひとつ見ていくと、ん??というようなものもあります。たとえば、

**亀鳴く(春)**: 亀は本来声帯はないのだそうです。春の朦朧とした夕暮れにどこからか聞こえてくる声を、遊び心をもって表した季語とされています。先日まで巣鴨図書館でお預かりしていた迷い亀さんは、よく「ぼー」とか「しゃー」とか鳴いていたのですが、あれはなんだったのでしょうか?鳴くシリーズでは他にも「**蚯蚓鳴く(秋)**」もあります。みみずは流石に鳴きませんよね。たぶん。

**蛙の目借り時(春)**: 春はなんだか眠くなりますよね。それはカエルが人の目を借りていくせいだ、というなんと不思議な説から。

面白い季語についてはいくらかでも書きたいことがありますが、紙面の都合上ここまで。ちなみに一番短い季語は1音「蚊」です。では、一番長い季語は?ぜひ調べてみてください。

<ヒント>なんと25音もあります。長すぎる……。

初めて聞く季語、心に響く季語、季語によって今まで言葉にしてこなかった様々な感情が、現れてくるかもしれません。そうしたら、もう一句詠めたも同然です。才能のアリ/ナシなど気にせずに、気軽に俳句の世界へ一歩踏み出してみませんか。

### おすすめ本

『わたしの好きな季語』 川上弘美/著  
NHK出版 (911.3 か)

『俳句、はじめました』 岸本葉子/著  
角川学芸出版 (911.3 き)

## 食いしん坊司書の部屋



今回のゲスト、3人の共通点は  
「チョコレート」  
図書館員には、甘党も多め。  
力仕事も多い職場なので、  
エネルギーチャージをしています。

## ♡ バレンタインスペシャル ♡

### <Nさん談>

みなさん驚いたのでないだろうか。KさんYさんの熱量に。チョコレートへの愛。お二人とも職場のフリーパーパーということで抑えているのだろう。11月頃から感じる熱量はこんなものではない。

先ほどYさんから、買い過ぎるから買いたくなくなる情報が欲しいと言われたばかり。すごい。何がお二人を狂わせるのか。

単純に考えるなら、普段はなかなか買えない品が買えるということ。日本未上陸商品の嵐なのだ。これは甘い物好きな方なら欲しくなるのでは。しかしこれだけではないだろう。なぜならお二人ともお気に入りがあるのだ。

やはり味か。舌に自信のない私でも、高級チョコレートとコンビニなどで買えるチョコレートの、くちどけの違いは分かる。みなさんもぜひ試してみてください。ではくちどけの違いは何に出るのか。色々調べた結果、カカオバターの含有量の差だと推測する。融点が高いのでくちどけに差が出るのだ。しかもカカオバターはカカオから少量しか取れないので、高価である。だから含有量が多いと、ほどけるような舌ざわりになり、値段も張るのだろう。原材料が高いならば仕方がない。あとは空輸代。高いのも仕方ないかもしれない。

買いたくなくなる理由になるのだろうか。ならないだろうな。なぜなら私も何だかんだと買ってしまおう一人なのだから。

そして、最後におすすめの本を一冊づつご紹介。

### ～オススメの本～

『ショコラティエの勲章』  
上田早夕里／著 東京創元社  
(ウエ) (目白図書館所蔵)  
『チョコレート工場の秘密』  
ロアルド・ダール／作 田村隆一／訳  
(夕) (全館所蔵)  
『チョコレートの歴史物語』  
サラ・モス／著 アレクサンダー・バ  
デノック／著 堤理華／訳  
(383 モ) (巣鴨・目白所蔵)

## じぞうさんぽ

### <幻影城まで徒歩10分>

今回は、西池袋～目白プチ文学散歩の巻です。まずは池袋駅西口→アゼリア通り→交番前で左折→立教通りへ。立教大学の正門まで来たら、道の反対側の校舎の間の道を右折(角にフクロウの石像の案内板あり)。10分ほどで旧江戸川乱歩邸に到着です。ここは乱歩が昭和9年から40年に亡くなるまで暮らした終の棲家。現在は立教大学が管理しており、見学可能です(1月現在、見学日は月曜と金曜の11:00～15:30。2月中は28日まで、館内整備と入試のため一般見学休止。立教大学のHPでご確認を)。母屋の玄関を入ると、正面のスクリーンに白黒の映像が流れています。昭和12年に別府と宮島へ家族旅行した際、乱歩が撮影した8ミリフィルムとのこと。ご本人も時折登場し、『砂湯温泉に埋まってご満悦の乱歩先生』『巖島神社で鹿と戯れる乱歩先生』等々、貴重なシーン満載でした。次はお庭で応接間と土蔵を外から見学。乱歩が蒐集した膨大な資料がぎっしり詰まった土蔵の内部を、入り口のガラスに張り付いてじっくり堪能しました。

立教大学の脇の細道を通って西池袋通りへ。池袋警察署前から劇場通りを目白方面へ。通りの端から住宅街に入る道をそのまま進み、十字路を右折、上り屋敷公園入り口付近の角を左折すると、茶色い板塀と連子格子の門の御屋敷が見えてきます。ここは歌人柳原白蓮旧宅。個人のお宅なので、遠巻きに眺めるだけにして、すぐ先のブックギャラリーポボタム(アートブックや自費出版を中心に扱う書店さん)に立ち寄り、次に向かいます。

西武池袋線の踏切を渡ると、今回の終点、豊島区立目白庭園に到着。斜向かいのギャラリー前の、赤い鳥社・鈴木三重吉旧宅跡の案内板を読んでから、表門をくぐります。平成2年に開設されたここは、小規模ながらも伝統的池泉回遊式の日本庭園です。園内に建てられた数寄屋建築の赤鳥庵は、前述の『赤い鳥』由来の命名とのこと。池を望む六角浮き見堂で一休みし、築山から落ちる滝や、小路に咲く木瓜の花を鑑賞しつつ池を一周。水面に映る松の雪吊りが、クリスマスの電飾めいて不思議な美しさでした。

(A)

### ともぼん お供本

『怪人江戸川乱歩のコレクション』 平井憲太郎 他／著 新潮社 (中央・駒込・目白所蔵。中央の本は館内閲覧のみ)

『赤い鳥100年』 『赤い鳥』創刊100年記念事業実行委員会 (J I 909) (巣鴨児童コーナーにあります)

旅のお供に  
ふさわしい図書館

### 編集後記

今月のすがもらいぶらりは  
「口福」満載。皆さまにも  
幸せがおすそ分けできますよう!  
(M)